

登山 月報



JMSCA

登山月報 第640号 令和4年7月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



ウエスタン・クウムからのローツェ

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第8回ボルダリングユース日本選手権 (BYC2022)	2
UIAA MedCom meeting 報告	4
令和4年度定時総会報告	7
令和3(2021)年度事業報告	9
2022年度 全国指導委員長会議・スポーツクライミング代表者会議報告 公認スポーツ指導者育成担当者会議参加報告	10
Enjoy Climbing	11
宮崎県山岳・S C 連盟自然保護委員会のSDGsな活動	12
寄贈図書	12
第156回 Mountain World	13
表紙のことば、編集後記	14

No.640

第8回ボルダリングユース日本選手権 (BYC2022)

実行委員会
村岡正己

第8回ボルダリングユース日本選手権を6月11日、12日にて鳥取県立倉吉体育文化会館で開催。2021年度はコロナの関係で12月に延期したが、それから6ヶ月と短い期間での開催となった。各カテゴリー年齢による入れ替わりがあるが、有力選手の活躍、新たに飛躍し表彰台に上がった選手など印象に残るパフォーマンスが多く見られた。

今回も5月に開催したLYC2022と同じく「ワクチン・検査パッケージ」による有観客での開催。多くの観戦者が来場した。

■来場者数

6月11日	・選手	男子	165人
		女子	124人
	・観戦		458人
	・視察来賓		7人
	・メディア		3人
	・スタッフ+BC		115人
		計	872人

6月12日	・選手	男子	19人
		女子	18人
	・観戦		171人
	・視察来賓		12人
	・メディア		3人
	・スタッフ+BC		125人
		計	348人

2日間 1220人

11日の予選は8つの課題によるコンテスト方式で行い、男子ジュニアで星優輝が、女子ジュニアで葛生真白と青柳未愛が8完登。12日の決勝は各カテゴリー毎に3課題で実施。

■各種データ

1. ワクチン・検査パッケージ

	metell	vaccine	抗原
・選手289人	184人	123人	166人
	64%	43%	57%
	metell	vaccine	抗原
・スタッフ125人	123人	101人	22人
	98%	81%	18%

2. 会場環境

CO2濃度、気温、湿度

6月11日				6月12日			
時刻	CO2	ℓ	%	時刻	CO2	ℓ	%
8:00	498	23	65	8:00	410	20	73
9:00	387	21	58	9:00	385	20	71
10:00	429	22	72	10:00	389	20	70
11:00	458	22	73	11:00	604	21	66
12:00	394	20	67	12:00	388	20	64
13:00	420	20	72	13:00	410	19	66
14:00	402	20	73	14:00	452	21	64
15:00	412	20	72	15:00	398	20	63
16:00	387	19	68	16:00			
17:00	370	19	66				
18:00	423	19	66				

■スタッフコメント

大会副実行委員長 **山田佳範**

第8回ボルダリングユース日本選手権(BYC)を無事開催することができた。BYCは第6回大会を除き、すべて倉吉で開催しており、年々大会運営が成熟していると感じている。大会が成功する決め手となるのは熟練したスタッフの存在である。今大会も、選手管理・会場管理など、重要な役割を地元スタッフが担い、大会を滞りなく運営する手助けをしていただいた。



地元スタッフにとって大きな経験となったのが、同地で2018年に開催したアジア選手権である。5日間でボルダリング・リード・スピードの3種目を行い、多くの地元スタッフに手伝っていただいた。今回のBYCスタッフの多くはアジア選手権を経験しており、そのときの蓄積がものを言っている。

今後もBYC倉吉大会を継続して開催し、安定した運営で選手の頑張りを下支えしていきたい。また、大会にご参加していただいた折はぜひ地元スタッフの活躍にも注目していただけたら幸いです。

大会審判長 片山健太

最近は、少しずつ大会が有観客(ワクチン・検査パッケージによる入場)で開催できるようになり選手応援(スティックバルーンにて)も増え、活気が出てきました。

その裏側で、運営チームとして地元鳥取のスタッフの皆様が協力して、選手・観客・スタッフのみんなが安心安全に入場出来るよう大会を支えてくれている事に変感謝いたします。

大会の方は、ユースボルダリングならではのコンテスト方式による予選で多人数でしたが問題なくスムーズに競技は進行しました。

決勝はカテゴリー毎に男女同時進行での進行。

予選・決勝ともに、過去の大会経験などを審判チームで事前に話し合い今回もアップデートした運営ができました。

昨年よりユースCDカテゴリーの大会が新設されたため、本大会の参加カテゴリーが減ったのに参加者数が以前と変わらず多いのは、ユース世代の選手がどんどん増え続けている証拠で嬉しい事です。今後のユース選手の活躍が楽しみです。

ユースB男子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	石原 凜空	MB02	2T 3Z 4 5	T1 Z1	** Z3	T3 Z1	4
2	山田 航大	MB39	2T 3Z 5 9	T2 Z2	** Z4	T3 Z3	1
3	藏敷 慎人	MB11	2T 3Z 7 4	** Z1	T6 Z2	T1 Z1	2
4	寺川 陽	MB19	1T 3Z 2 8	** Z1	** Z5	T2 Z2	6
5	小林 隼翔	MB14	0T 3Z -- 3	** Z1	** Z1	** Z1	6
6	栗田 瑛真	MB12	0T 3Z -- 18	** Z3	** Z4	** Z1	3
7	本明 佳	MB34	0T 2Z -- 6	** Z2	** Z4	** **	5

総合力を試される課題の中、石原凜空、山田航大、藏敷慎人が2完登3ゾーンで並ぶがアテンプト数で石原が優勝。特に石原は飛びつきから悪い向きのホールドが続く第1課題を一撃。素晴らしいパフォーマンスだ。



ユースB女子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	村越 佳歩	WB26	2T 3Z 3 8	T2 Z2	T1 Z1	** Z5	1
2	関川 愛音	WB15	2T 3Z 8 8	T7 Z5	T1 Z1	** Z2	4
3	小田 菜摘	WB37	1T 2Z 1 4	** **	T1 Z1	** Z3	6
4	山真 奈美	WB30	1T 1Z 2 2	T2 Z2	** **	** **	2
5	後藤 奈々	WB10	0T 1Z -- 6	** **	** **	** Z6	5
6	藤村 侃奈	WB22	0T 1Z -- 9	** Z9	** **	** **	3

予選4位の関川愛音が追い上げ村越佳歩と2完登3ゾーンで並ぶが、第1課題を2トライで完登した村越がアテンプト差で優勝。



ユースA男子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	安楽 宙斗	MA27	2T 3Z 4 3	T3 Z1	** Z1	T1 Z1	5
2	通谷 律	MA38	2T 3Z 6 5	T3 Z3	** Z1	T3 Z1	1
3	小侯 史温	MA36	2T 3Z 10 9	T5 Z4	** Z3	T5 Z2	6
4	松岡 玲央	MA19	1T 2Z 1 4	** **	** Z3	T1 Z1	3
5	田宮 瑛人	MA16	0T 3Z -- 9	** Z3	** Z5	** Z1	4
6	杉本 侑翼	MA43	0T 3Z -- 11	** Z3	** Z7	** Z1	2

ユースAではダイナミックなムーブが多く、安楽宙斗、通谷律、小侯史温が2完登3ゾーンで並ぶが、今年3月に外岩のホライゾン(五段+)完登した予選1位の通谷をアテンプト差でおさえて安楽が優勝。



ユースA女子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	竹内 亜衣	WA15	3T 3Z 5 4	T2 Z1	T2 Z2	T1 Z1	1
2	小倉 紗奈	WA04	2T 3Z 4 6	** Z3	T3 Z2	T1 Z1	5
3	抜井 美緒	WA38	2T 2Z 3 2	** **	T1 Z1	T2 Z1	4
4	武石 初音	WA33	1T 2Z 2 9	** Z7	T2 Z2	** **	2
5	永嶋美智華	WA35	0T 2Z -- 12	** **	** Z8	** Z4	3
6	田島 瑞歩	WA16	0T 1Z -- 4	** **	** **	** Z4	6

ユースA女子もパワーと総合力が必要な課題。予選1位の竹内亜衣が全完で優勝。特に、第1課題のトップを抑える体勢は、他の選手が苦労する中、確実なもので素晴らしいかった。



ジュニア男子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	関口 準太	MJ28	2T 3Z 7 5	T1 Z1	T6 Z3	** Z1	3
2	安川 潤	MJ18	1T 3Z 2 5	T2 Z1	** Z3	** Z1	6
3	鷹見 真洋	MJ11	1T 2Z 1 2	T1 Z1	** **	** Z1	4
4	星 優輝	MJ15	1T 2Z 2 2	T2 Z1	** **	** Z1	1
5	森本 治誉	MJ17	1T 2Z 2 2	T2 Z1	** **	** Z1	5
6	佐野 大輝	MJ09	1T 2Z 2 3	T2 Z2	** **	** Z1	2

第2課題、3課題ともに高難度のルート。関口が2完登で優勝勝ち取る。



ジュニア女子

順位	氏名	No.	完登	課題1	課題2	課題3	予選
1	野部 七海	WJ17	3T 3Z 11 11	T1 Z1	T1 Z1	T9 Z9	3
2	滝口 萌	WJ05	2T 3Z 3 4	T2 Z2	** Z1	T1 Z1	4
3	葛生 真白	WJ09	2T 3Z 10 11	T1 Z1	** Z1	T9 Z9	1
4	青柳 未愛	WJ01	1T 3Z 1 10	T1 Z1	** Z1	** Z8	2
5	工藤 花	WJ03	1T 3Z 2 12	T2 Z2	** Z2	** Z8	6
6	中嶋 諒	WJ16	0T 2Z -- 9	** **	** Z1	** Z8	5

第1課題は全員完登、第2課題は野部七海のみ完登。最後の課題で滝口が1撃し優勝は「誰」なのかと混沌とするなか、野部七海が9トライ目ラスト2秒で完登し優勝を勝ち取る。



強化委員会 副委員長・ユース日本代表ヘッドコーチ

西谷善子

大会の内容は、LYC 2022同様に、予選ラウンドから課題の難易度がやや難しめに設定されており、国際規格を意識された課題で選手のパフォーマンスを見れたことは、強化の観点からも非常に有意義でした。一方で、本大会の予選ラウンドはコンテスト方式で行われるため、年齢の若い選手やその方式に慣れていない選手は、ラウンド内でのペース配分や戦略に苦戦して、うまく実力を発揮できない選手も見受けられました。

全体的には、LYC 2022でも感じたことですが、これまでユース日本代表に選考された経験のない選手や様々な都道府県の選手の活躍する様子が窺え、全国的な強化が進んでいる印象を受けました。さらに、オリンピックの効果か、リードとボルダリング両種目で決勝に進出する選手も増えており、年々ハードな課題にも対応できる選手が多くなっている印象で、選手たちの未来がより楽しみになりました。私たちも、選手の努力に寄り添えるように、「単種目でも複合種目でも強い選手を育成・強化」していけるように今後も体制や環境を整えていきたいと思えます。

▶今後のユースチームの活動

本大会をもって全種目のユース強化選手とユース世

界選手権派遣選手が決定致しました。前者は、各種目定期的な練習会を実施し、年間を通して強化を図っていきます。特に、ユースはスピードとリードの競技力の底上げが必要だと感じているので、その2種目を中心に強化練習を開催していく予定です。後者は、2022年8月22日～31日にアメリカ・ダラスで開催されるユース世界選手権にユース日本代表として派遣されます。

【2022年スポーツクライミングユースボルダリング強化選手】

<https://www.jma-climbing.org/article/2022/06/28/2022-youth-bouldering-athletes/>

【IFSCクライミングユース世界選手権ダラス2022 派遣選手】

<https://www.jma-climbing.org/article/2022/07/04/Japan-2022-youth-national-team-selection-YWCH2022/>



UIAA MedCom meeting 報告

■会場：The Adventure Hub, Unit 1 Hope Valley
Garden Centre, Bamford S33

■期日：6月10日

2022年6月10日英国、Hathersageから西へ車で10分かかるBamfordにあるThe Adventure Hubで、UIAA Medical Commission meeting (UIAA MedCom meeting) が開催された。英国ではCOVID 19は既に忘れ去られつつあるが、日本ではまだ警戒が解かれていないため、出国は簡単だが帰国が困難極める中での出席となった。

以下、同会合で話し合われた内容を記載する。

■出席者

■生出演：Urs Hefti (議長), David Hillebrandt (英国), Lenka Horakova (チェコ), Norihiro Kamikomaki (日本), Hidenori Kanazawa (日本), Steve Roy (カナダ), Rianne van der Spek (オランダ、議事録作成), Peter Bourne (UIAA), Alistair Morris (軍

医、医療情報担当者、英国、ウェールズ), George Rodway (米国), Matthias Hilty (スイス), John Ellerton (ICAR), Helen Blamey (話者), Nick Colton (BMC, The British Mountaineering Council 英国登山評議会), Denzil Broadhurst (ヘルパー), Chris Smith (ヘルパー), Jeremy Windsor (地元の主催者), Beth Hall Thompson (UCLAN 英国 diploma 立会人)

■オンライン出席者：Eduaro Vinhaes (ブラジル), Kaste Mateikaite (リトアニア), Nate Menninger (UIAA), Marieke van Vessem (オランダ), Anil Gurtoo (インド), Tomas Gozlar (スロベニア), Daniel Taverna (オーストラリア), Eckhart von Delft (南アフリカ), Ivan Rotman (チェコ), AliReza Behpour (イラン), Alison Rosier (スイス), Corrado Angelini (イタリア), Jason Williams (米国, DiMM), Erhan Alemdar (トルコ), Ffyon Davies (話者)

1. Jim Milledge への賛辞

<https://www.thebmc.co.uk/obituary-jim-milledge>

– David Hillebrandt

BMC の名誉医学アドバイザーである David Hillebrandt が今年の 2 月 9 日に 91 歳で亡くなった Jim Milledge の経歴と登山界への貢献を振り返った。Jim は北ウェールズの学校へ行った。失読症のため隠された Jim の潜在能力が認識されなかったため、彼はラズベリージャムの工場で働かされ、そのような環境では決して働かない決心をした。やがて高所医学の仕事に没頭するようになった。彼の仕事は世界中で評価され、彼は BMC を代表して UIAA MedCom の議長を一期務めた。Jim は熟達した研究者であっただけでなく、他に依存しない有能なクライマーであった。これは、Edmund Hillary 卿と Griff Pugh が 1960 年に組織した Silver Hut の冬越しの遠征で大いに彼の役に立った。彼はマカールの 7000m 地点まで行き、具合が悪くなった Hillary を救助に行った。彼はアルパインクラブとクライマーズクラブの活動的な会員で、1981 年のコンゲール、エベレスト遠征、1991 年のジャノリ遠征をはじめとする世界中の山岳地域への旅に同行した。最初は香港で RAF (Royal Air Force 英国空軍) とともに (Milledge バットレスは地域のロッククライミングガイドブックに今でも載っている)、それから Christian Medical College と Vellore の病院へ行き、その地の利と彼の人脈のおかげで、彼はキナバル登山とネパールトレッキングに行くことができた。Jim 自身と同様、彼の 2 人の子供たちもアウトドアで育てられ、今日までアウトドアへの興味は続いている。Jim は自分の人生が永遠の山岳休暇だったと冗談を言ったが、その一方で彼は医学界で尊敬された。彼は Northwick 公園病院で医長になったが、ある若いスタッフは彼のことを「これまでに来た医長の中で最高で、対立するグループの橋渡しと和解をいつも行っていた」と評していた。Jim への賛辞の中の一つは、冒険の最中に彼が励まし、導き、指導した若い研究者、医学生、医師、遠征登山者の数の多さに心を打たれることである。彼の最期の数年間、Jim の短期記憶力は低下し、遂に今年の 2 月に亡くなった。

2. 英国科学プレゼンテーション – Jeremy Windsor

Jeremy Windsor が、Helen Blamey の「手足を切断した人のクライミング」に関する研究を紹介した。科学的計画で Helen はこの研究を行い、最終的には切断手術を受けた人に人工装具をつけてアウトドアで冒険するためのより良い医学的助言をできるようにすることを目指している。アウトドアに行く、自分の情報と経験

を喜んで提供してくれる人工装具をつけた人々を知っていたら、Helen に連絡を取るよう、出席者が依頼された。

3. 山岳における事故、インシデントとニアミスの研究 – FFyon Davie

FFyon Davie は山岳環境で報告されている事故、インシデントとニアミスにどんな過程があるのか研究している。彼女は世界中全てのデータベースを概観しようとしている。今までのところ彼女はいくつかのインタビューを行い、デス・ゾーンのブログに発表している。報告システムのデータを集めるためのアンケート、および予備的アンケートの専門家による再検討を行っている。参加者は FFyon Davie が登山中の事故、インシデント、ニアミスの報告のデータベースを概観するのを

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf9V369-LvUmvuRbWWLE5amraTv0HedsgRJBScsA9h_cmsGjg/viewform

に答えることによって手伝うよう依頼された。

4. UIAA (1) – Peter Bourne

Peter Bourne は UIAA 事務局と一緒に仕事をしており、UIAA と他の団体とのコミュニケーションを円滑化する仕事を行っている。さらに気候と山を守ることが重要な話題である。彼は医療委員会と一緒に働いて、UIAA のウェブサイト到我々のアドバイスを閲覧できるようにしてきたし、最近では急性高山病や水の浄化のビデオを創った。そのビデオは例えば教育を行う際に皆が自由に使うことができるし、

<https://theuiaa.org/uiiaa/how-to-avoid-and-prevent-altitude-sickness/>

<https://theuiaa.org/uiiaa/safe-water-in-the-mountains-uiiaa-produces-advice-video/>

で観ることができる。これからの計画には医学的アドバイスの文章の更新と、DiMM (Diploma in Mountain Medicine) の情報が含まれる。

5. ICAR – Joh Ellerton

ICAR と UIAA の高所 (超高所) での救助において協力することを提案した。それは一般向けに山岳救助に関する情報を提供することを含む。

6. DiMM – Jason Williams

DiMM は現在のところ唯一の国際組織であり、1997 年 8 月に公式学位コースのための最低限の必要条件を確立した。山岳救助におけるヘルスケアプロバイダーの国際基準を定めるために使われてきた。合計 28 のコースプロバイダー、22 の基礎コース、9 つの野外遠征医学コース、6 つの地上救助専門コース、2 つの山岳

ヘリコプター救助専門コースがある。教育機関の適格性認定(最初、および更新時)、すなわち同業者による査察を受けた書類審査、その後現地視察、2年後に最初の承認、その後4年ごとの審査を受けることになっている。学位の更新は現在は活動日誌の提出で認められているが、すべてのプログラムがこのシステムを使っているわけではない。日本のDiMMグループは最近他の国のコースにアイデアを与えるかもしれない取り組みを進めてきた。金澤英紀が日本のコースにCME(continued medical education)を推し進める活動に参加して来たので、DiMMワーキンググループに彼の経験を提供する予定である。

7. ISMM (国際登山医学会) – George Rodway

次のISMM学術集会は2024年7月か8月に米国で開催される可能性大である。未来の学術集会の開催場所と共同開催の選択肢に関する議論が行われている。WMS(野外医学界)と一緒に北米で開催される予定である。それは低所得諸国の人々の参加の機会を制限する。ニュージーランド開催も考慮される。予算を得るために彼らは最低限の参加人数を確保する必要があるが、場所的に難しい問題である。未来の学術集会のためにICAR/ISMM/UIAAの合同会議を開催できる場所を探す必要がある。西洋以外の国で政府組織の援助を受けることのできる控えめな学術集会を目指す。

8. UIAA (2) – Urs Hefti

我々のメンバーの中にはここ数年活動をしていなくて辞めた人もいる。Thomas Küpperは副委員長を辞めた。彼は非常に努力をしてくれたが、特に長年にわたるMedComのAdvice and Recommendationの仕事には非常に感謝している。2022年、以下のメンバーがMedComから去った。理由は会員資格を更新しなかったこと、任期制限に達したこと、あるいは活動的でないためこれ以上参加したくないことであった。Johan Holmgren(スウェーデン)、Patrik Peters(ルクセン

ブルグ)、Agazzi Giancelso(イタリア)、Dikic Nenad、Volker Schöffl(ドイツ)。副委員長が空席となっている。その席は2人以上で埋めるべきである。2021年のUIAA年間報告が出版され、以下で閲覧できる。

https://theuiaa.org/documents/members/UIAA-Annual-Report-2021_Digital.pdf

9. これからの計画 – Urs Hefti

COVID 19のため出費が減っている。そのため医学的計画の予算が増えている。すべてのアイデアを歓迎する。Steve Royによれば、UIAA.comのドメインが使用可能である。もし予算があれば認知度を増やしUIAAを周知することに役立つ。Matthias HiltyとSteve Royが「小児のrecommendation」をISMMとの共同計画で更新する。2022年夏の終わりに書き始め、2024年に書き上げることを目指す。その文章はオープンアクセスで閲覧できるようにする計画である。

10. 高所へ行く女性 – Urs Hefti

スイスでこの話題に関するハイブリッド医学会議が開催される予定。参加者全員に2022年9月10~11日にスイス、Pontresinaで開催される「高所へ行く女性」の会議を自分のネットワークで奨励するよう要請された。

<https://theuiaa.org/uiiaa/register-for-women-going-to-altitude-conference/>

11. 次のMedCom meeting – Urs Hefti

2023年UIAA MedCom meetingは英国、LeadsでUIAA春の会議と一緒に開催される予定である。他の委員会のUIAA会員、および代議員と会う機会を与えてくれるが、今年MedCom meetingはすでに英国で開催されたので、別個に違う場所で開催することも考慮している。2024年UIAA MedCom meetingはISMM/WMS学術会議と一緒にされる。

12. 各国の貢献

上小牧憲寛が他の国はCOVID 19パンデミック最中



Stanage Edgeのクラマー達



UIAA MedCom Meetingの会場となったAdventure Hub

および終了後に高所旅行会社などにどのようなアドバイスをしているか質問した。Urs Heftiによれば、現在のところ海外旅行や地元の活動に対する特別なアドバイスは行っていない。スイスではCOVID 19ピークのさ中にこれ以上医療システムに危険な挑戦をさせない高所での危険な活動に参加しないよう政府がアドバイスをしている。David Hillebrandtによれば、商業活動を再開する必要性はときにCOVID 19関連の危険性を制限することの間に摩擦を生じる。その他、低所得地域では観光事業からの収入の必要性とCOVID 19関連のリスクの間のバランスが高収入地域と異なるとの意見が出た。

13. ワークショップ

UIAA MedCom meeting とともに行われたBMCの

令和4年度定時総会報告

令和4年年度定時総会は、ハイブリッドによる開催となった。

- 日時：令和4年(2022年)6月19日(日)10:30～15:40
 - 場所：A P浜松町B+C会議室とオンラインのハイブリッド会議
- 開 会 会議成立状況(定款第18条)正会員数66名 客足数過半数34名以上
正会員=66名 出席(本人60名、委任状6名)
同席者は各委員会の委員長(3名欠席)及び顧問と新役員候補の次の方々である。

同席者

顧問：城隆嗣、田中文男、本木總子、神崎忠男、八木原啓明
顧問弁護士：萩原崇宏(オンライン)
新役員候補者：小高令子、赤尾浩一、望月啓治、丸山尚子(オンライン)、中橋沙羅、佐久間務

1. 会長挨拶

昨年から、1. 財政基盤の盤石化と流動性の確保と、2. 地方および都市部を含めJMSCAのブランド力を高められるよう情報発信をすることを約束しました。

また、3つのミッションを達成することを目標にしました。加盟団体振興推進PTの設立もそれを達成するための一手段であり、成功した岳連の活動を分析し、他岳連にも展開するケースメソッドの手法を使いたいと考えています。その一例として、某県でのお子様向けのトレーニングキャンプ(60名の小中学生が参加したスポーツクライミングを学ぶ)も、行いました。また、ユース世代における低体重対策は、六角理事、西谷副委員長によりまとめられ、NFやIFに投げかけ、大きな成果を得ることができました。

また、After TOKYO 2020で3つのスポンサー会社が契約の更改ができなかったり、環境の悪化(円安)がある中で、Instagramや、Facebookの登録者数はそれほど伸びませんでしたが、YouTube登録は20,900人以上に増加し、今後もJMSCAの発信力を高めるためにこれらの手段の強化を継続していきたいと思っています。

現在のスポンサー獲得状況は、大手飲料メーカーと、大手自動車メーカー等と交渉を行っており、70-80%ほどの獲得の可能性があるが、その他のスポンサーの獲得活動とあわせて、継続していきたいと思っています。新世代の登山や競技の普及については、日山協の60名強の正会員の皆様の当事者意識が必要です。今後ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

2. 議長及び議事録署名人選出

定款第16条に定めるところにより、丸会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第1項に基づき、議事録署名人として丸誠一郎会長、小竹靖高理事、藤本直民正会員(奈良)を選任して議案

メンバーとともにワークショップに参加した。David Hillebrandtに「ろっ骨が折れたら麻酔薬は何を使ってもらいたい?」と質問され「モルヒネ」と答えたら「そうだよ」と同意していただいた。「でもケタミンなんかはどう?」と再度質問され「血圧が低下しているときには第一選択ですね」と答え「その通り」と再度同意していただいた。和やかな雰囲気の中でワークショップに参加できた。

■読者の皆さんも

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf9V369-LvUmvuRbWWLE5amraTv0HedsgRJBScsA9h_cmsGjg/viewform

のアンケートに答えることによってFFyon Davieの「山岳における事故、インシデントとニアミスの研究」を手助けすることができます。是非ご協力ください。

の審議に入った。

なお、議長とは別に、司会進行(Zoomホスト役)は小野寺専務理事が担当し、議事進行の方法についての説明を行った。

3. 議 事

議案第1号 令和3年度事業報告の承認について

小野寺専務理事及び赤尾事務局員から、配布資料を基に説明があった。

議案第2号 令和3年度収支決算の承認について

相良理事から配布資料に基づいて説明があった。その後中島監事から監査報告、古屋監事から監査所見が報告された。その後以下の質疑応答が行われた。

質問 2019年度八王子世界選手権の収支が赤字となった経験や反省が生かされているか。

回答 その時の反省を基に予算設定やその執行を行った。しかし、2020年B J Cからコロナ禍に入り、大会の開催が厳しい状況になった。コロナもある程度おさまることを想定し予算化した。実際は感染の影響が長引いた。大会中止も検討したが、協賛金の返却が発生し、資金繰りが厳しくなることから、大会を開く方向で検討した。その結果、PCR 検査費を含めたコロナ対策費や会場費が予算以上に膨らんだ。令和4年度は、大会毎の優先度を設定し、状況により当年度の大会の中止や、縮小を検討することも念頭に置き、対応していきたい。

質問 夏山リーダーの登録状況、都道府県別指導者、クライミング指導者の人数は、どうか。各岳連の指導委員長には、このデータはすでにいきわたっているの、それを参考にしてほしい。

質問 トレールランニングについて

回答 登山部では、調査はするが、データ等とらえていない。自然保護の方に重点をおいている。

質問 パラクライミングとの関係はどうなっているか。

回答 小林会長とはコミュニケーションをとり、大会にも参加するようになっている。IFSCの総会で、大会の実現も遠くないようだが、すぐにパラクライミングと一緒に何かやるというようなことはなく慎重に進めたい。

質問 クライミングジムの状況をどう把握しているか

回答 全国で700近くあったが、600まで減っている。入れ替わりがあり厳しい状況。今後、ポリウレタンが逼迫、ホールドの調達に難しいことが予想される。普及活動にジムの関係者にもはいてもらい、どう影響がでてくるか実験を試みている。

質問 クライミングの大会に関わる費用の補助を増やせないか。

回答 共済会5万円、国体ブロック30万円が現状。今後の検討とさせていただきます。

質問 減遭難に向けて道迷いを減らすために、登山者へのアラートのためパウチを作っている。設置について、環境省と交渉できないか。勝手に看板を付けるわけにはいけないので、JMSCAや、遭難対策協議会といった名前をつけてはどうか。木のプレート等

もその候補で、JMSCAとしてよいアイデアを出していただける
とありがたい。

回答 行政を絡める場合には、予算化等が必要なので、活動が進ま
なくなってしまうことがある。地権者の特定、岳連の名前をいれ
て責任を特定するなどして、地元の警察と協力することから始め
ていきたい。看板を見て、その存在が認知されるようになったら、
中央団体がやる必要がでてくるかもしれない。

質問 SDGsの取り組み活動として何を想定しているか。現状は
どうか。

回答 SCの場合には、フューチャーカップから意識ははじめ、教
育に焦点を当てはじめた。自然環境に限定せず、各委員会が行っ
ている活動状況の洗い出しをして可視化するようにした。

質問 自治体の補助金として収入があるのは、どういう経緯や背景
からか。どういう趣旨で補助金を出していただけているのか。

回答 都道府県や市町村によって補助金の位置づけは異なる。内
容によっては、議会の承認が必要などところもあるし、町おこしの
一環として、積極的なところもある。過去連続して開催してきた
ので、施設使用料金の減免や、看板や幟を積極的にたてて対応し
てくれるところもある。今後は、その経済効果や実例なども提示
できるようにしたい。その後、以下の出席者確認を行った。合計
66名

(会場35名 オンライン25名 委任状6名)

議長を除くと合計65名となる。

●議長が議場に採決を諮った。

議案第1号について

議長を除いて、65名全員の賛成で承認された。

議案第2号について

議長を除いて、65名全員の賛成で承認された。

13時10分～13時40分 昼食休憩

議案第3号 定款第21条(役員定数)及び25条(役員任期)の変更
について

小野寺専務理事から、配布資料に基づいて、役員定数を増やす
変更と、役員任期にかかわる変更の説明がされた。さらに、当定
款の変更には、総正会員の3分の2(45名)以上の賛成が必要で
あることが補足された。

●議長が議場に採決を諮った。

議長を除いて、65名全員の賛成で承認された。

議案第4号 役員(一部)の選任について

新理事5名、新監事1名の選任について、

●議長が議場に1名ずつ採決を諮った。

(理事) 小高令子 65名全員の賛成で承認された。

赤尾浩一 65名全員の賛成で承認された。

望月啓治 65名全員の賛成で承認された。

丸山尚子 65名全員の賛成で承認された。

中橋沙羅 65名全員の賛成で承認された。

(監事) 佐久間務 65名全員の賛成で承認された。

4. 報告

報告第1号 令和4年度事業計画及び収支予算について

小野寺専務理事、赤尾事務局長、相良常務理事から配布資料を
基に説明がされ、その後、以下の質疑応答が行われた。

質問 各計画の数値目標が示されていない。何をどこまでやるのか
が明示されていないと成果が期待できないのではないかと。各委
員会で、目標を具体化して提示してほしい。

回答 個々の数値目標はたてにくい実情である。各都道府県がリー
ダーを何人育てるとか、講習会の参加人数の目標を、余裕をもっ
てやっているわけではないのが実情。SCの場合には、東京オリ
ンピック以上の結果(メダルを取る)を目標としている。

質問 予算については、歳入の見込みが立ってから、歳出の計画を
立てているとのことだが、誰が責任を持って、現実に対応(予算
管理)できるのか。

回答 競技会の開催については、メリハリをつけていく。具体的
には、採算状況により、将来の大会の中止も視野に入れており、そ
のつもりで運用していく。選手強化の補助金については、大きい
金額を申請したが、全額承認いただけた。

質問 財政については、せめて委員会単位で赤字にならないよう
な予算編成や、特定準備資金を切り崩した結果600万円しか残って
いないので、赤字にならないような予算管理に努めてほしい。

回答 言われる通りと思います。歳出については、従来の方法を変
え、歳入のめどを立ててから歳出等を計画しているが、予算執行
時の進捗管理を強化していきたい。

事業計画についての補足

クライミングワールドカップ大会を盛岡で実施する件について、
岩手県、盛岡市から、多額の補助金をだしていただいております、
ぜひ大会を成功に導きたい。10月20～22日で実施するので、
ぜひ協力をお願いしたい。山形県の「山の日」全国大会が 8月
10,11日に行われる予定で、JMSCAからも、古賀登山部長が
出席予定。計画にも明記するようにする。コンバインドジャパン
カップは、11月12日、13日に西条市で行われるので、その変更も、
計画の中に入れる。

報告第2号 ガバナンスコード適合性審査の実施について

小野寺専務理事から配布資料を基に説明がなされた。上部3団
体から通知があり、現状のガバナンスコード実現度合いがわかる
ような資料を7月29日までに提示する必要がある。いずれ、これ
らが、各都道府県にも波及する予定。

報告第3号 加盟団体振興推進PTについて

亀山副会長から配布資料を基に設置要領と、メンバーの説明が
され、アンケートの回答協力の要請がされた。

報告第4号 令和3年度日山協山岳共済会事業報告と収支決算報
告

小野寺専務理事から配布資料を基に、全体の説明とJMSCAが
契約者となる保険の種類とその内容の説明がされた。

中島監事から監査報告、古屋監事から監査所見の説明が行われ
た。

報告第5号 令和4年度日山協山岳共済会事業計画と収支予算に
ついて

小野寺専務理事から配布資料を基に説明がされた。

報告第6号 令和4年度第59回全日本登山大会・高知大会中止に
ついて

小野寺専務理事から配布資料を基に説明がされ、中止に至った
経緯と発生した費用の説明があった。

報告第7号 その他

蛭田常務理事から、日山協山岳共済会の保険に関して3つの依頼
があった。

1. メリットの強調 46%割引となっている。1,000円の共済会加入
料金を支払っても、ハイキング、登山コースで、具体的にいくら
安いかと、スポーツクライミング、トレランもカバーされること
のメリットが強調された。

2. 日山協山岳共済会の入会により、3%が各都道府県に還付され
ているので、各都道府県岳連のHPにバナーを貼ってほしい。後
日、理事長、会長に連絡しますのでよろしくお願い致します。

3. 屋外の人工壁の保障にも対応できる包括保険となっている。海
外登山の保険、講習会の指導者の傷害にも対応。

質問 岳連でどれだけの人が入会しているか、個人加盟
者数のデータがあるか。簡単にいれるような仕組みにしたらどう
か。個人単位で入る保険と包括保険の違いやメリットは何か。

回答 データとして個人加盟者数の把握は難しい。また、利便性向
上のためにHPの改修を進めているが、時間を要するので、でき
ることからやっていきたい。包括保険は事業者が講師や参加者
を含め事業で発生する事故をカバーするために負担という考え方、
一方個人が直接入る保険は、被保険者の責任で対応というのが
基本。

5. その他

JMSCAへの要望 (一社)京都府山岳連盟から以下の発言が
あった。

*理念を明確にして、顔が見えるような活動をしてほしい。目的と
理念が一緒になっているように見える。

*JMSCAと地方の岳連との協調による強みが出るような活動と
してほしい。

*広報誌の面白くない。月報を読み応えのある面白い内容にして
ほしい。

*遭難を防ぐためには、教育しかない。

*共済会への加入者を増やすための工夫をぜひ継続してほしい。

6. 閉会

亀山副会長が15時40分、閉会を宣した。

令和3(2021)年度事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

I 事業総括

本協会(JMSCA)は、わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山岳環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点としている。

前年度の令和2(2020)年度は、年度当初から未曾有のCOVID-19の感染拡大に見舞われ、東京2020オリンピックの延期を筆頭に諸事業の延期・中止が相次ぎ、何もやれない、何もできないことが創立60周年の記念となる、余りにも悲しい1年であった。そして本年度、令和3(2021)年度も昨年同様、コロナ禍の影響により、日本のみならず世界の経済状況が停滞、年度後半にはロシアのウクライナ侵攻が拍車をかけた。こうした現況下であり、本協会では、日本の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、「JMSCA中期経営計画2021-2025」(以下、「中期計画」という。)を策定した。この中期計画で掲げるVISION(理念)・MISSION(使命)・VALUES(価値)に基づき、加盟団体及び登山・スポーツクライミング関係者とともに、新時代に向けて「より高き頂」へと更に大きく成長発展する登山・スポーツクライミング界を築いていき、登山とスポーツクライミングの力で社会を元気にする社会貢献(人づくり・地域づくり・国づくり)を目指す、との目標を掲げた。しかし、中期計画は始まったばかりではあるが、目標にははるか遠いという事を実感させられている。

スポーツクライミングにおいて、令和3年度は、延期となった東京2020オリンピックの年であり、コロナ禍の中、無観客において開催された。本協会においては、男女各2名ずつ出場し、女子の部で野中生萌が銀メダル、野口啓代が銅メダルに輝いた。男子においては、梶崎智亜が4位、原田海が18位であった。目標としては金メダル獲得であったので成功とは言い難いとの意見もあったが、兎にも角にもオリンピック種目として初めて臨んだ大会においての結果としては悦ばしいものであった。選手は元より彼らを支えたコーチ・スタッフにも大いなる拍手を送りたい、さらにその人たちを支えた多くの関係者に感謝の気持ちを伝えたい。

今後については、東京オリンピックのレガシーとして、パリ2024オリンピックへの目標とマイルストーンを設定し、ユース世代の発掘・育成・強化を図るとともに、選手の心身の健康をサポートしていき、ジャパンカップ等の運営ノウハウをさらに向上させて、今後の各競技大会の価値拡大を図っていく。ジャパンツアー、クライミング体験会等を全国的に展開してスポーツクライミング愛好者の底辺拡大に拍車をかけたいものである。

選手強化とともに指導者、審判員、ルートセッター、競技スタッフ等の養成と資質の向上を図り、協会として国内の競技大会を発展させていく考えである。

一方、登山に関しては、山岳遭難事故を減らす事故防止対策が喫緊の課題である。リーダー不在の遭難事故が絶えない。まず、身近なリーダーを育成するために、「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開し、より多くの夏山リーダー養成に努める目標を立てたが、コロナ禍で出足が遅れている。また、一昨年から呼びかけている「ストップ・ザ1000 !!」の減遭難キャンペーンは、音声入りアニメ動画を用いて全国に展開し、減遭難運動を広く登山者に呼びかける予定であったが、コロナ禍で思うような拡散ができなかった。

このような中においても、道迷いを防ぐための看板設置など地道な作業が進んでいる。勿論地元の土地所有者との関係も上手に築いていく必要があり、一つ一つ障害を乗り越えていかなくてはならない。

遭難事故を起こさない自立した登山者の育成とともに衰退傾向にあるアルパインクライミングの振興を図り、海外登山の奨励やウインタークライマーズミート等を支援する事を掲げたが、残念ながら奨励金を出して推し進めている海外登山もコロナ禍に阻まれてしまった。

「美しい山、日本の未来へ」とのことで自然保護委員会の活動に

についても積極的に推し進める意向であったが、進んでいない。環境保全は地球温暖化防止のために重要であり、今後の核の一つとしたい。SDGs(Sustainable Development Goals)については当初自然保護委員会に取り込もうとしたが、内容的にはもっと大きなものであり、部の枠を超えての推進委員会とした。活動は緒に就いたばかりであり、実体のあるSDGs推進委員会とする所存である。

子供たちを山に親しみさせ、登山の楽しみ、喜びを伝えなくてはいけない。委託事業の「少年少女登山教室」を加盟団体と共に更に発展させるべく、考えているが、コロナの影響により今年度は全部で15件の申請であった。

山岳スキーについては、2026年開催の冬季オリンピック(ミラノ・コルティナダンペッツォ開催)において種目として採用されることになった。1つのNFとして夏冬開催のオリンピック種目を持つ団体になった。本協会の丸会長は20年来の悲願が達成されたとのメッセージを出したが、対応には、過去の経験を十分生かして準備に邁進したい。スポーツクライミングと比べ選手層は驚くほど少ない。日本選手は今までも世界選手権には出場していたがイタリアのワールドカップを視察に行き、改めて世界との差を思い知らされた。山岳スキーのスポンサーを新規に募り、動き始めてはいるが、選手の開拓、資金の獲得、人材の確保、ロードマップの作成など山ほど仕事がある。

アイスクライミング競技は、まだまだ発展途上にあるが、UIAAはIOCにアプローチするための準備をしており、NFに対しても協力を呼び掛けている。呼応すべく専門委員を1名派遣する事に決定した。

倫理・AD研修については、A登録を行う為に受講が必要であり希望者は後を絶たない。日本選手権を経て世界大会を目指している選手が多く、講師が不足している。実施はコロナ禍のこともあり、オンラインで行って来たが、山岳スキーも入り、希望者はさらに増えると予想されることから、講師の数や研修会の回数を増やすことも考えなくてはならない。その場合のスタッフの確保も大事である。

本協会の「スポーツ団体ガバナンスコード」の適合性審査は、令和4年7月だが、自己説明及び公表は毎年対応を求められる。今年度もその要求が来ている。加盟団体も一般スポーツ団体ガバナンスコードに則った運営が求められており、一昨年度から始めている加盟団体の法人化支援と合わせて、より一層のサポートをしながら、加盟団体の組織・財政の強化を図りたい。

また、選手のみならず、役職員、指導者、審判員、ルートセッター等の倫理研修を継続的に行い、関係者が一丸となってガバナンスの強化に努める。

JMSCAとはどのような団体か各ステークホルダーをはじめ広く国民に向けて「JMSCAの価値観」を積極的にアピールし、情報発信する必要がある。広報委員会はコーポレートコミュニケーション委員会に改称した。心機一転を図るためである。これを機会にHPの改善、英文HPの開設などを行って、海外対応を整備する。また、SNS等を利用してタイムリーな情報発信を行っている。

II 組織運営及び財政基盤の確立について

本協会が実施する各事業の推進にあたっては、本協会内に設置した各専門委員会を中心に企画・立案し、必要に応じてワーキンググループ等の設置や調査を実施し、課題解決に向けた具体的な目標の設定や実施方法等について検討を行う。

また、事業評価システムを着実に実施し、体系的なPDCAサイクルを定着させ、そのスキームを本協会内や加盟団体等に浸透・定着するよう努める。

会員の状況は以下の通りである。(令和4年3月31日現在)

- ①正会員 67名(加盟団体48名、学識経験者19名)
- ②賛助会員(団体) 9社
- ③賛助会員(個人) 96名(入会2名、退会・逝去16名)

個人賛助会員100名を切ると税額控除団体から外れることになる。次回申請は4年後である。会員の確保に最大限努める所存である。

2022年度

全国指導委員長会議・スポーツライミング代表者会議報告 公認スポーツ指導者育成担当者会議参加報告

2022年6月12日(日) 13:00～16:00

2022年度全国指導委員長会議・スポーツライミング代表者会議が実施されました。今日ではコロナ過での全国からの集合形式が難しいご時世でもありますがWEB開催も当たり前のこととなりつつあり首都圏の常任委員のみ東京の会議室にて集合形式で参加。各地からはWEB参加としハイブリッド開催にて実施されました。

また初の試みとして、元々指導委員会として山岳とスポーツライミングの運営は兼任している都道府県も多いこともありましたが、山岳の指導委員長会議の後にスポーツライミング代表者会議も併せて実施となりました。

参加者は山岳が41人、スポーツライミングが29人と合計70人となりました。

山岳、スポーツライミングそれぞれの昨年度の事業報告、委員会のメンバー紹介と役割分担、本年度の事業計画の説明とそれぞれの主任検定員の状況が説明されましたが、コロナ過での事業の中止、延期を余儀なくされ、未だこの先も事業を開催できるかは確定できませんが、山岳、スポーツライミング共にそれぞれの指導委員会の活動を推進していきます。

●【JSPO】公認スポーツ指導者育成担当者会議報告事項

5月19日オンラインにて開催

JMSCA指導委員会から4名参加致しました。

① 2023年4月1日付更新登録における特例措置

新型コロナウイルス感染症の影響により更新研修の開催が中止、あるいは受講が難しい状況が続いています。そのため、特例として(一部資格・競技は除く)、来年2023年4月1日付の資格更新においても、所定の更新研修の受講状況に関わらず、登録手続きの対象とします。なお、現時点で本特例の対象となる方におかれましても、可能な限り受講期限となる2022年9月末までに更新研修を受講いただくようお願いします。(詳細は日本スポーツ協会ホームページ参照)

② スポーツリーダーの制度が2022年で終了し今後新たにコーチングアシスタントとして開始される。

(年4回の開催)従来のコーチ1の共通科目になる。

③ スタートコーチ

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等において、必要最低限度の知識・技能に基づき、当該競技の上位資格者と協力して安全で効果的な活

動を提供する。

スポーツライミングで受講を開始する。

④ 教員資格者に対し

日本スポーツ協会公認スタートコーチ(教員免許状所持者)養成講習会取得推進が始まるそうです。

⑤ 「公認スポーツ指導者育成アクションプラン2018」において、女性有資格指導者数を2022年度までに42,000人に増やすことを目標として設定。

全体目標人数はクリアしているが、全指導者に占める女性指導者の割合は減少傾向となっている。

⑥ 競技団体による監督・コーチ等の大会参加条件としての公認資格保有の義務付けを目指す。

(現在は70%、スポーツドクターは100%)

⑦ 有資格指導者数を200,000人に増やします。

<実績:177,510人>

⑧ コーチ2共通科目は今年度からWEB開催はなくなり集合形式に戻ります。都道府県スポーツ協会が窓口になりますのでお問い合わせください。

⑨ 今後、コーチ1は共通科目としてスタートコーチ受講、コーチ2は共通II、コーチ3は共通III、コーチ4は共通IVを受講となりますので飛び級(コーチ1の資格がない場合でもコーチ2を受講の際共通科目は共通IIのみ受講スタートコーチの受講は不要)

⑩ スポーツ指導における暴力・虐待の根絶。

これらが全国スポーツ指導者連絡会議の主な内容となります。

● 2023年度指導委員長会議開催予定

令和5年6月4日(WEB開催の場合)

(山岳指導委員長 野村、
スポーツライミング指導委員長 藤江)

対面の指導委員長会議風景



佐藤裕介

オンサイトを狙い始めて10年ほどたった2021年秋、満を持してトライした現人神のオンサイトトライ。いつもシンプルに1回目のトライでオンサイトしたいと願っていると前号で記している割に全然シンプルでない面倒かつ周到な下準備を経てのトライとなった。

*

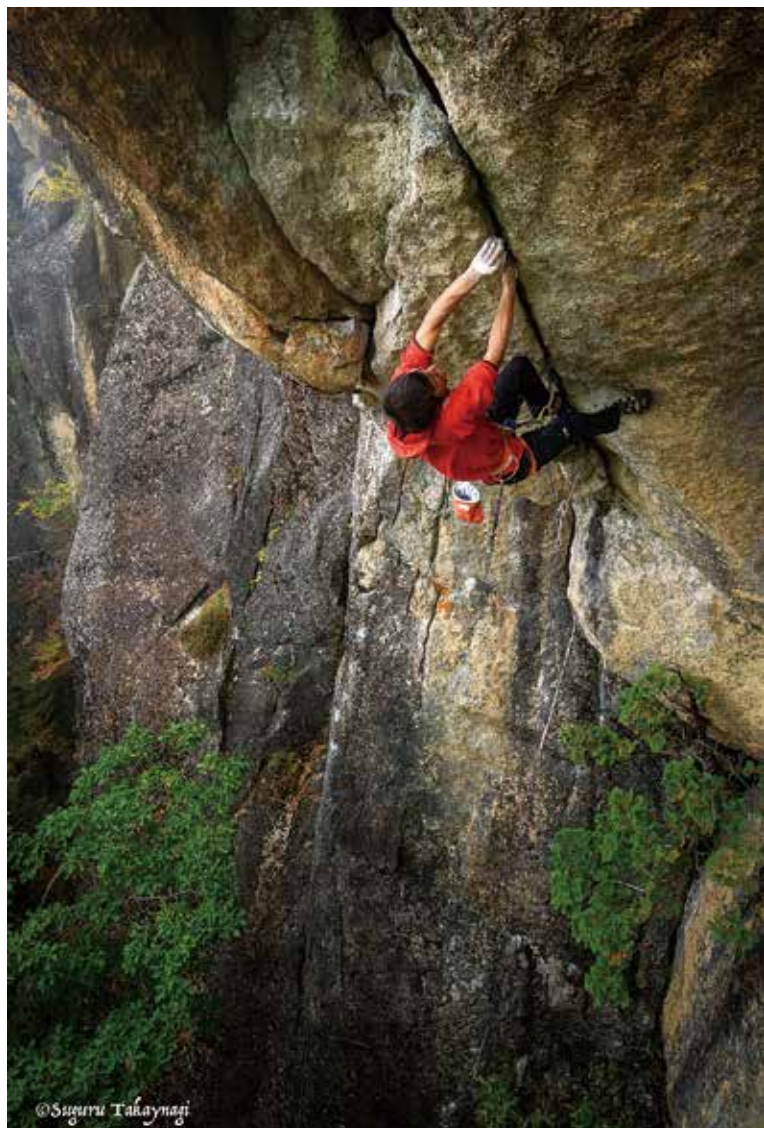
● 2021年10月10日

トライ当日は3時起床、瑞牆の手頃なボルダー皇帝岩のスラブ課題「鏡 6級」を暗闇の中、ヘッドライトで黙々と登り続ける。朝一はぎこちなかった動きも徐々に洗練されてきて10回目のアップ時にはほぼ自動化した安定した登りとなった。チップの駐車場に戻り、暗闇のラジオ体操→マットを引いてストレッチをこなして現人神に独り向う。ビレイしてくれる北平さんとは現地集合だ。現人神に向かう途中にある牆瑞レイバック3級も何度か登って心身ともに温めた。アップの総仕上げに現人神前半のスラブを登りルーフ部分を触って更にもう一つカムを決めてからクライムダウンした。とんでもなく面倒で時間をかけた下準備が終わった。当然スラブ部分のボルトはバッククリーン。しかも屈曲点にはプーリーまで設置し考えられる範囲でロープの摩擦を少なくした。出だしのムーブや傾斜の感じ方もしっかり頭に入った。取り付きで15分ほどレストしてから本トライを開始する。瑞牆トポで何度も見ていた長門君のムーブと全く同じ動きでルーフ部分にカムを決め※、出口のガバ目掛けてデットした。ワイド部分を慎重に登って行き随分と長い間温めていたトライを最高の形で終えることができた。

※後日トポの写真を見返したら彼と私では左右逆の手だった。我ながらいい加減な感覚である。

*

現人神オンサイト直後の取り付きで、感慨深くクラックを見上げる。素晴らしいクラックだった。折角なら、初登時と同様にクラック限定、ジャミング主体でこのクラックを登ってみたい。今日は時間がないので、一旦このクラックからは離れ、また明日クラック限定バージョン(5.12 d)をトライすることに決定した。取り付きで、懇意にしているカメラマンに連絡して明日の撮影も快諾してくれた。ビレイヤーも今日に続いて北平さんが引き受けてくれることに。有難いことである。



撮影：高柳 傑

*

● 2021年10月11日

2時起床で、朝風呂に入り何だかんだとアップを終えて現人神にまた戻ってきた。今日は昨日までのピリピリした緊張感なく楽しいトライだ。クラック限定バージョン(5.12 d)へ取り付く。流石に取り付きまでのクライムダウンはしなかったがじっくりスラブ終盤でレストしてからルーフへ突っ込んだ。手足共にジャミングするこのムーブは私の得意系課題で、足も含めて左のガバホールなどは無視した。これも落ちることなく1回目のトライで完登を決めることができた。

クライマーである事を諦めなくて本当に良かった。楽しくヤル気に溢れる仲間と一緒にクライミングができて私は幸せです。最後に、無茶なトライを許して応援してくれた家族。朝早くからビレイしてくれた北平さん。腹筋と腰を酷使しながら撮影してくれたクライマー兼カメラマンの高柳傑君。変な時間のホームジム利用を快く受けてくれたジャンボ。オンサイトトライ前日の試登&クライムダウン時、取り付きで待っていてくれたクライマーさん。皆さん本当にありがとうございました。

宮崎県山岳・SC連盟自然保護委員会のSDGsな活動

全国各地で見られる自然環境の変化は、ここ九州でも例外ではない。宮崎大分県境に位置する祖母傾山系においても、山域のほとんどを覆っていたスズタケが紫色の花を咲かせ、一部を残し枯れ果てた姿となっている。

登山者にとっては、視界を遮るものがなくなり、登山道からの見晴らしがよくなったと思うこともできるが、山の保全の点では、地肌がむきだしになり、保水力もなくなったことで、土砂の流出と斜面の崩壊が始まり、山全体の荒廃が懸念される状況となっている。



枯れたスズタケ。数年で無くなり一面見渡せるようになる

こうした中、祖母傾山系の登山道ではスズタケで守られていた表土が降雨により流出しやすくなり、洗掘された箇所が多くみられるようになった。

また、スズタケが枯れそこで暮らす動物の生活環境も変わり、餌場がなくなったことでシカによる樹木の剥皮の被害頻度が高くなり、立ち枯れするブナ類も段々と増えている。そして、植生が衰退し土壌が乾燥することによる表層の崩壊発生も確認されている。

こうした箇所の保全対策として、地元山岳会では、主に現地での倒木を利用した階段の設置を行い、登山道を整備している。この作業は、登山道に階段を設置するというよりも土砂の流出防止用の柵を作るといった意味

合いの方がしっくりくる。また、資材を現地調達することで運搬作業が必要なく登山道整備へ労力が傾注され、何より現地の材料であるため周辺環境に与える影響もなく合理的である。こうした地道な作業が、土砂流出部分に土砂を定着させて緑を回復させ、少なからず荒廃を防止しているようだ。



現地の倒木を利用した階段（土留め）

登山道や山自体が保全されていくことは良いことではあるが、別の問題として実際に整備に携わる方々の年齢問題がある。各山岳会などに所属する会員は決して若くはなく、高齢化の一途を辿り、存亡の淵に立たされた会や、自然消滅していく会など状況は深刻だ。今まで登山道整備されていた場所もいずれ荒廃していく運命にあるのかと考えると、ここにも持続可能なものとするための課題があり、その対策は急務であり重要だ。これは全国的にも共通認識とされているところではあるが、今一度、会への帰属を問わず、これらの問題を登山者全体で考え行動する機会を、各地で増やしていくことが大切であると思う。

(宮崎県山岳・スポーツクライミング連盟
事務局長 木下和幸)

寄贈図書

日本山岳文化会	「山岳文化」2022年 第23号	機関誌	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2022 No.569	会報
(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.530	会報	長野県山岳協会	「やまなみ」No.245	会報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2363号、第2364号、第2365号	新聞	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.44	会報
神田 洋二	「ハイキング・登山の危険予知」	寄贈本	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第493号	会報
山と溪谷社	「ROCK & SNOW」No.96	雑誌	東京野歩野路会	「山嶺」Vol. 99 No. 1108	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第660号	会報	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No. 501	会報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」7月号 No.1053	雑誌	日本山岳会	「山」No.925	会報
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」7月号 No.901	雑誌	おいらく山岳会	「山行手帖」No.751	会報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.388	会報			

「シャイニング・マウンテン」再び

池田常道

ガルワールのチャンガバン(6880m)は、リシ・ガンガをはさんでナンダ・デヴィと対峙する印象的な岩峰である。クリス・ボニントン(1974年、インド(バルワント・サンドウ隊長)との合同隊で初登頂を狙った。ドゥーガル・ハストン、ダグ・スコットら翌年のエヴェレストで活躍する猛者をそろえたが、ラマニ氷河に向かって1700mも切れ落ちる西壁は手に負えず、シプトンのコルを越えてチャンガバン氷河に入り、東稜を経て頂上に立った。西壁に登られたのは1976年秋、ジョー・タスカーとピーター・ボードマンの若手コンビによってだった。46年も前の話だが、当時のヒマラヤで、たった二人のチームがこれほど大胆なルートに成功した例はなかった。

タスカーはその前年、ディック・レンショウとドゥナギリ(7066m)南東壁を初登攀していた。チャンガバンほどの難しさはないにしても、上部にドロワット北東側壁を想起させる障壁がある。彼らはこれを7日間で登り、ほぼ同じルートを下った。チャンガバン西壁は、この間ずっとタスカーとレンショウを見守るように屹立していた。タスカーが次の目標をチャンガバンに決めたのは、その経験があったからだった。

同じ年の春には、日本からグループ・ド・コルデとグループ・ド・エスカラッド・ジャポンの合同隊(戸田直樹隊長)が南西稜を経てチャンガバンの第2登を果たしていた。タスカーは戸田隊長に情報提供を求め、ヒマラヤの壁における登攀速度をはじき出したと聞く。1976年という年は、山学同志会隊(小西政継隊長)のジャヌー北壁、岡山クライマースクラブ隊(柿本育夫隊長)のアンデス3つの壁(ワンドイ南峰南壁、チャクララフ東峰南壁、イェルパハ北西壁)など6000~7000m級の壁で日本隊の活躍が目立った。固定ロープは使ったが、いずれも技術的に困難な登攀をテーマにした遠征だった。

タスカーはドゥナギリとチャンガバンの登攀について「Go and Rub Your Nose Against It」(邦題・やってみなけりゃわからない!)を岩と雪51号(1978年2月)に寄稿してくれた。この奇妙なタイトルは、英国登山界の大先達、トム・ロングスタッフの箴言からきている。

岩に鼻をこすりつけてみなければ(登れるかどうかなんて)わからないという意味だ。

レンショウはドゥナギリで受けた凍傷で指を3本失っていたので、チャンガバン西壁のパートナーは、前年ボニントン隊でエヴェレスト南西壁を登ったばかりのピーター・ボードマンになった。金満隊だったエヴェレストに比べ、たった二人の貧乏隊は天と地のちがいがあったようだが、ボードマンには却って新鮮な体験だったようだ。彼は2年後に『The Shining Mountain』を著し、好評を博した。筆者は当時、翻訳出版を企画したが、他社が翻訳権を取ったと聞かされて諦めた記憶がある。なぜか今もって邦訳が出ていないのは、この名著にとって惜まれることだ。

その後、チャンガバンは南壁(78年)、北壁(97年、98年)などから登られたが、西壁は長らく登られることがなかった。そして今年5月、ニュージーランドのマシュー・スコールズ、キム・ラディゲス、ダニエル・ジョールの3人が、この、ヒマラヤ登攀史上に輝くルートを初めて再登した。

ニュージーランド・アルパインチーム(NZAT)に属する3人は10年前からの知り合いで、チョラツェ北壁、フィッツロイ、セロ・トーレ、グランド・ジョラスなどで登攀してきた。チャンガバン計画が持ち上がったのは2年前。スコールズは8000m峰へ行きかけたようだが、結局他の2人の計画を受け入れた。4月25日にABCを後にし、登攀と荷揚げ、休養のローテーションを組み、ポータレッジ2張とテント1張でビバークを繰り返しながら5月2日、頂上に立った。



チャンガバン西壁。タスカーとボードマンは右手のスカイラインに沿って登った

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のこぼれ

ウェスタン・クウムに向かって進むと、正面にローツェ(8,516m)が大きく眺められる。初登頂は1956年5月18日、スイスの第3次エベレスト隊によってなされた。

左手サウス・コル側から派生している岩稜は、「ジュネバ・スパー」(ジュネーブ人の支稜)。1952年春、秋にエベレストに挑戦したスイス隊は、この岩稜を登ってサウス・コルへ達したので、このように呼ばれた。その後、落石事故の為、53年英国隊からは、現在のローツェ・フェースからのルートを取るようになった。

山名は、1921年の英国エベレスト隊で、G. バロックとG. マロリーがチベット側からこの山を発見してチベット語で命名。ローは南、ツェは峰で、エベレストの南峰の意。(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

UIAAのスティーブさんより突然日本への渡航はビザが必要になったとのこと、英国はビザ免除国で全く考えていませんでした。それからが大変、ビザを取得するのを調べて、外務省のHPより「在留資格認定証明書」を、招へいするJMSCAのメールアドレスのPC(証明するため)より申請して、取得した証明書を英国の日本大使館へ申請する必要があります。事務局へ依頼して入力しているとまた問題が発生しました、英国の日本大使館の7月受付は終わったらしい、我々に残された選択肢は査察の延期だけでした。しょうがない再スタートしよう。

(蛭田伸一)

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第640号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年7月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

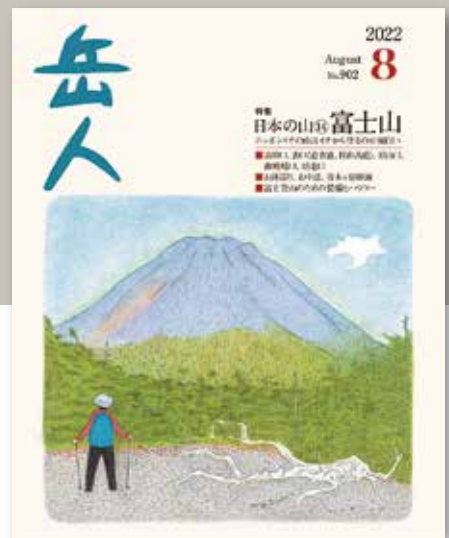
電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



8月号
発売中

【特集】日本の山⑭ 富士山

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 1冊分おトク!

~~10,560円(税込)~~ → **9,680円(税込)** (送料別)

11,616円(税込) 10,648円(税込)

年間購読特典

わずか32g!*

岳人 コンパクト マルチランプ

さまざまなシーンで活躍する超軽量ヘッドランプ。
※単4形乾電池1本含む重量

限定デザイン

全国2,000カ所以上でのご優待!

岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ モンベルポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます